

## 陳 情 文 書 表

平 3 0 陳 情 第 1 6 号	平成 3 0 年 1 1 月 1 5 日 受 理
件 名	投票率向上のため、高校生への選挙教育と選挙時の情報発信方法の見直しを求める陳情
陳 情 者	秦野市平沢 2 5 5 0 - 1 (公益社団法人秦野青年会議所内) 秦野高校生議会 2 0 1 8 選挙委員会 副委員長 村山 綾菜
陳 情 の 要 旨	
<p>1 8 歳選挙権を実現する改正公職選挙法は、2 0 1 5 年 (平成 2 7 年) 6 月 1 9 日に公布、2 0 1 6 年 (平成 2 8 年) 6 月 1 9 日に施行され、同年 6 月 2 2 日から適用され、平成 3 0 年に行われた秦野市長選挙では、1 8 歳～1 9 歳の投票率は 2 2 %、全体の投票率は 4 0 . 5 6 % となりました。実際に選挙に行くかについて、友達や同級生の話やインターネットでも「選挙自体がわからないから行かない」という消極的な意見や「選挙に行きたくない」「面倒くさい」と思う若者が多い現状があります。</p> <p>今後のまちの発展を考えるに当たり、若年層の投票率の底上げのため、高校生への選挙教育と選挙時の情報発信方法の見直しとして 2 つ提案したいと思います。</p> <p>1 つ目として、実際の投票方法と選挙の意義を伝える手段である選挙教育での出前講座を現状のパワーポイントやスライドに加え、アニメーションや動画を用いた啓発など、高校生が身近に感じるような手法をとる必要があると思います。また、市からの政党や候補者の政策の発信方法は、現状、選挙公報、公選ハガキ、選挙ポスターとなりますが、その中でも選挙公報が高校生の目に触れることができるよう、情報の発信方法を見直す必要があると考えます。この見直しにより、若年層の投票率の向上が図られ、今後、日本の社会を担っていく若者の声を政治に反映させることが出来ると考えます。</p> <p>2 つ目は投票所についてです。現状、投票所は数が少なく若者が近づかない場所が多いことから、高校、大学などで比較的若者が行きやすい、親しみやすい場所が良いと考えます。実際に愛媛県松山市で行われた選挙において、松山大学を投票所の一つとして配置した結果、2 0 歳～2 4 歳の投票率が 2 9 . 2 % で 2 0 1 0 年の参議院議員通常選挙を 2 . 7 ポイント上回る結果が出ているので、大学などを投票所として配置することがさら</p>	

なる投票率向上につながると考えます。

#### 陳情事項

- 1 選挙教育での出前講座においては高校生が身近に感じるよう、動画などを用いた啓発方法にしてほしい。また、若年層の投票率向上の対策として、インターネットに簡単にアクセスできるQRコードなどを使用し若年層が目に触れやすい媒体で選挙公報の発信をしてほしい。
- 2 投票所を学校（大学・高校）やショッピングモールなど若年層に親しみがある場所に開設してほしい。

